



あ い さ つ

福島県スキー連盟会長 玉川 武

新しいスキーシーズンの始まりにあたり、あいさつを申し上げます。

8月の評議員会において、会長に選任されました玉川武と申します。微力ではありますが、歴代の会長はじめ役員の皆様が築いてこられた実績を大事にしながら、福島県スキー連盟のさらなる発展のため、新役員とともに組織を生かし、精一杯努力して参ります。会員の皆様には、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。このたび、退任されました鈴木安一前会長はじめ旧役員の皆様、長い間ありがとうございました。今後ともお力添えいただきたいと存じます。

昨シーズンは、記録的な雪不足で大会や検定会等の会場変更や中止・延期となったことに加えて新型コロナウイルスが感染拡大となり、諸行事等も中止を余儀なくされました。スキー関係の皆様には大変なご苦勞の年となりました。困難な中、対応された皆様には心より御礼を申し上げます。

このような中で、「とやま・なんと国体」ではアルペン競技の岡野大我選手が成年男子A 7位、網代慈子選手が成年女子B 5位、クロスカンントリー競技の菅井千穂選手が成年女子B 4位、栗原訓子選手が7位に入賞し、天皇杯1 2位、皇后杯8位入賞を果たしました。また、モーグル競技では全日本選手権において星野純子選手がデュアルモーグル1位、モーグル2位になり、県体育協会の「スポーツふくしまライジングプロジェクト」の中で、将来の日本代表入りが期待される「ネクストアスリート」に西沢岳人選手が選ばれました。

なお、今シーズンは指導員検定会・A級検定員検定会（第2会場）とスキー大学が「あだたら高原スキー場」で開催されます。関係の皆様には大変お世話になります。

新型コロナウイルスが収束したわけではありませんので、国・県・全日本スキー連盟等の動向を注視しながら、ウイルス感染予防対策の周知徹底を図り、できることから事業を遂行していきたいと考えております。

今シーズンも県体育協会・猪苗代町・東北索道協会福島地区部会をはじめ関係の皆様にはご指導・ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

終わりになりますが、コロナ禍で大変厳しい状況であるにもかかわらず、機関紙「福島のシュプール」第46号の発刊にあたりご協賛をいただきました皆様、編集に当たられた関係の方々に感謝申し上げ、あいさつといたします。